

平成 2 7 年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

平成27年度科学研究費の継続課題は、学術研究助成基金助成金によるものが6件、一部が学術研究助成基金によるものが2件ある。

新規に採択された課題は科学研究費補助金（研究活動スタート支援）1件、学術研究助成基金助成金によるもの2件の課題が採択された。

なお、学術研究助成基金助成金は研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記しない。

(1) 継続研究課題

< 基金 >

基盤研究（C）一般

「日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究」

平成25～27年度 角南聡一郎 3,800 千円（研究期間合計額）

「アーカイブにおける短命資料の保存に関する研究」

平成25～27年度 金山正子 3,400 千円（研究期間合計額）

「古代アジアにおける組紐製作技法の発生と伝播に関する基礎的調査」

平成25～27年度 小村真理 3,800 千円（研究期間合計額）

「出土櫛から見た古代東アジアにおける葬制の比較研究」

平成25～27年度 木沢直子 3,900 千円（研究期間合計額）

「東アジアにおける石材利用技術の地域性と伝播・展開に関する基礎的研究」

平成26～28年度 佐藤重聖 3,800 千円（研究期間合計額）

若手研究（B）

「平安期緑釉陶器の色彩学的研究」

平成25～27年度 田中由理 1,500 千円（研究期間合計額）

<一部基金>

基盤研究（B）一般

「出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について」

平成26～29年度 植田直見 13,300 千円（研究期間合計額）

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」

平成26～30年度 狭川真一 11,900 千円（研究期間合計額）

(2) 新規研究課題

<補助金>

研究活動スタート支援

「擬似出土木材調製方法の開発」

平成27～28年度 山口繁生 1,100 千円（平成27年度）

<基金>

基盤研究（C）一般

「東アジアにおける甲冑の変遷と祭祀利用の実態解明に関する基礎的研究」

平成27～29年度 塚本敏夫 3,600 千円（研究期間合計額）

若手研究（B）

「日本中世における戦死者供養の実証的研究」

平成27～29年度 服部光真 1,500 千円（研究期間合計額）

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学分野

（公財）大和文化財保存会補助事業

奈良県奈良市 雨宝山十輪院

奈良県桜井市 総本山長谷寺

奈良県高取町 壺阪山南法華寺

大阪府大阪市 四天王寺

大阪府堺市

奈良県内寺社所有の版木調査

歴史資料総合調査および寺史編纂事業

文化財等保存調査事業

古文書翻刻作成

境内所在石造物調査

市史編さん時資料に係る目録作成業務

大阪府泉南市	文化財総合調査
大阪府高槻市しろあと歴史資料館	古文書史料目録作成
香川県	札所寺院の史跡指定に係る曼荼羅寺文化財詳細調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る出釈迦寺文化財詳細調査
香川県	札所寺院の史跡指定に係る大窪寺文化財詳細調査
愛媛県	四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所(龍光寺)の詳細調査(その2)
愛媛県	四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所(明石寺)の詳細調査(その1)

(公財)大和文化財保存会助成金による奈良県内寺社所有の版木の調査は、吉野郡吉野町東南院、櫻本坊、喜蔵院、大日寺を対象として行い、「吉野山の版木」を刊行した。

寺院所蔵文化財の継続的な調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、繊維製品、石造物、工芸品などについての調査・整理を実施した。十輪院の歴史資料総合調査は初年度にあたり、古文書・古記録、聖教類の調査に着手した。四天王寺境内所在石造物調査も初年度にあたり、庚申堂所在石造物の調査を完了した。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では曼荼羅寺、出釈迦寺、大窪寺の調査を実施して完了した。愛媛県では龍光寺が2年度目の調査を実施して完了し、また明石寺の調査は初年度分を実施した。

泉南市文化財調査は、光平寺を対象として総合調査を実施し完了した。

その他、古文書の目録・翻刻作成業務として、壺阪寺文書の翻刻作成、堺市の旧役場文書の目録作成、高槻市の高階家文書の目録作成を行った。

考古学分野

香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査遺物整理及び報告書作成事業
香川県丸亀市	城下町遺跡大手町3・4次調査出土遺物整理事業
福岡県筑後市	秋津島浪衛門石塔実測調査業務
奈良大学	企画展「発掘された古代国家」輸送・展示補助業務
奈良県三郷町	持聖院蔵骨器調査報告業務
京都市	平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査整理報告業務

平成25年度に行った善通寺市旧練兵場遺跡発掘調査に関する報告書作成を26年度に引き続き行い、報告書を刊行した。

平成18年度に当研究所が調査を行い、先方事情により調査報告書が未刊行の状態であった丸亀市丸亀城跡（大手町地区）3・4次調査出土資料について、4年度計画で整理作業を受託している。平成27年度は3年度目で3次調査の遺構図版作成と文章執筆を行った。

福岡県筑後市 秋津島浪衛門石塔は、江戸期を代表する力士であった秋津島浪衛門の供養塔であるが、これを市指定文化財にするための基礎調査を行った。

奈良県三郷町持聖院蔵骨器調査報告業務は、^{げだつぼうじょうけい}解脱房貞慶の分骨塔と伝承される石塔より出土した蔵骨器である。年代測定、人骨鑑定、蔵骨器の鑑定の結果、貞慶の分骨容器である可能性が濃厚となっており、近日中に結果を報告する予定である。

平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査整理報告業務はマンション建設に伴う発掘調査を受託した。250㎡の発掘調査で平安時代から江戸時代の町家変遷を追うことができ、京都で初の事例となる馬の埋葬を確認した。

記録資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は10年目を終えた。歴博内では館内業務の位置付けを再検討する時期にきており、状態調査の意義付けを館内でも検討中である。平成27年度は前年より引き続き現地調査員を駐在させての委託業務として状態調査を行なった。調査対象資料は「婚礼衣裳・婚礼用具及び生活用具」および「ミニコミ資料」で、後者コレクションは、ほぼ半数の調査を終え平成28年度に継続する予定である。

記録資料・伝世資料分野

沖縄美ら島財団 海洋文化資料の管理保存に関する調査

平成27～28年度事業。海洋文化館（国より沖縄美ら島財団へ管理委託）収蔵資料の調査研究および普及啓発に関する検討業務を保存科学研究グループと共に進めている。平成27年度はカビの発生した資料の燻蒸およびクリーニングと保管環境調査を実施し、館内職員のための取り扱いマニュアル（基礎編）を作成した。平成28年度には引き続き、所蔵資料の状態調査と保管環境調査を継続し、今後の保存計画の策定のためのデータ化と取り扱いマニュアルの整備を進める予定である。

保存科学研究グループ

大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府太子町） 大修羅の保存状態調査

出雲大社（島根県出雲市） 重文出雲大社境内遺跡出土品保存修理に伴う計測
沖縄県浦添市 ようどれ墓の環境調査・評価

大修羅の保存処理後、寸法計測や表面状態調査を継続的に行っている（平成9年度から毎年）。保管環境は良好で、これまでに大きな変形などは見られないが、経年変化による部分的な表面質感や補填材の劣化が観察されている。

出雲大社境内遺跡出土心御柱3本のPEG含浸処理中の変形収縮を防止するため、定期的な寸法計測や重量測定、PEG溶液の濃度測定・検査を行った。

ようどれ墓室内の環境調査を行い、墓室内への遺物設置に関して評価を行うとともに、改良案の提案を行った。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成27年度は正暦寺にある3基の古式宝篋印塔のうち、東側の1基について詳細な調査を実施した。本塔は、反花座上に乗る立派な宝篋印塔で、基礎上面も反花座とし、笠（軒）裏面は受花とする手の込んだものである。基礎側面には大きな格狭間を彫り込んでおり、中央塔とは異なって関西地方に広がるタイプの先駆けでもあり、優れた塔であることが再認識された。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

滋賀県長浜市

大阪府松原市

福島県会津若松市

熊本県玉名市

熊本県あさぎり町

(公財)北海道埋蔵文化財センター

ちくぶしまほうごんじ
竹生島宝厳寺の彩色顔料調査

ぬのせ
布忍神社扁額の彩色顔料調査等

会津大塚山古墳出土金属製品の分析

おおばるいせき きぶねにし
大原遺跡・木船西遺跡出土青銅製品の分析

さいぞんこふんしゅつど りゅうきん
才園古墳出土 鍍金獣帯鏡の分析

こうれん
幸連3遺跡出土琥珀の分析

滋賀県長浜市竹生島宝厳寺の唐門・観音堂・船廊下、大阪府松原市布忍神社扁額の彩色顔料を可搬型の蛍光X線分析装置を使って分析・調査した。

会津若松市会津大塚山古墳出土鉄製品の微小部観察を行い、繊維等の有機物について考察した。熊本県玉名市大原遺跡・木船西遺跡出土異体字銘帯鏡等青銅製品、熊本県あさぎり町才園古墳出土の鍍金獣帯鏡の材質分析や付着顔料分析を行った。

北海道木古内町幸連3遺跡出土琥珀を科学分析することにより産地を推定した。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

記録資料分野

名古屋大学	古文書・絵図面・書籍(12点)の修復
高知県安芸市	絵図面(3点)の修復
熊本県熊本市	熊本城絵図の修復
埼玉県川口市	村絵図・地引絵図(2点)の修復
清水建設株式会社(東京都)	儀式道具置台の修復
大阪府河内長野市	書籍・萬覚帳・引札(7点)の修復
和歌山県南方熊楠記念館	事典類(14点)の修復
圓光寺(兵庫県)	名号掛軸の修復
関西大学	大礼服の修復

文書・絵図類の修復事業は漉^{すきばめほう}嵌法を中心に進めており、名古屋大学、安芸市などの修復を実施した。絵図面の修復は需要が増えてきており、資料の状態に応じて漉嵌法と裏打ち法を選択している。川口市の近代の絵図面は、水に滲みやすい顔料もみられ水分を調節しながら裏打ちを施した。また、熊本城絵図は一辺3m以上の大型絵図だが、近世の作製当初のへら線が本紙や裏打ち紙にも残っており、それら进行处理中の水分で消さないようにドット接着法(糊を点々状に本紙につけて裏打ち紙を接着する方法)を考案し処理を進めた。

平成18年度より継続的に修復を進めてきた清水建設株式会社所蔵資料は、儀式道具の漆塗り置台の保存処理を終え、所蔵資料のメンテナンスは完了した。

河内長野市は市立図書館所蔵の近代の書籍類の修復等を行った。また、南方熊楠記念館所蔵の革製の事典類は製本の劣化が進んでおり、革の欠損部を染色した和紙で補填する方法を用いて修復した。

圓光寺の名号掛軸は本紙の亀裂と裂地の劣化が進行しており、解体修復ののち裂地を新調して掛軸装丁を行った。

関西大学の創立者の一人である鶴見守義氏のものとされる大礼服は、絹糸の劣化破断のため装飾の金モールとスパンコールが落下しており、それらを部分的に新調復元し、収納用保存箱と展示台を作製した。

伝世資料分野

対馬丸記念館(沖縄県那覇市)	対馬丸記念館所蔵ランドセル(2点)の保存処理
大分県佐伯市	重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具保存処理
沖縄県浦添市	ようどれ石厨子の保存処理
浅間寺 ^{せんげんじ} (兵庫県養父市)	十二神将の修復

岩手県陸前高田市

登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」
(10 点)保存修復業務

対馬丸記念館所蔵ランドセルの保存処理は、1944(昭和19)年8月21日沖縄から本土への疎開時に撃沈された対馬丸に乗船していた学童が所持していた赤・黒2つのランドセル(遺品)の保存処理を行い完了した。なお、レプリカが作られたため、本オリジナルは収蔵されることとなった。

平成27年度重要文化財『蒲江の漁撈用具』保存修理事業では、ギョセン(網船)の保存修理のため現地処置を行った。作業は28年度と継続であるため未着手分を残し、作業を終了した。

浦添城(グスク)の北側崖下にある琉球王国初期の王陵の石室にあった王家の死者の洗骨を埋葬するための石厨子の石材強化処置ならびに補強のための強化補填を行い完了した。本事業は27年度で終了した。

浅間寺所蔵十二神将像(室町期造像市指定文化財)を修復した。

東日本大震災により被災した登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」の保存処理を平成26年度に続き行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

出土木製品分野

出雲大社(島根県出雲市)	重要文化財出雲大社境内遺跡出土品(10点)の 保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
広島県立歴史博物館(福山市)	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土柿 ^{こけらきょう} 経(109点)の保存処理
熊本県	曾畑貝塚 ^{そ ばたかいづか} 出土植物性遺物(3点)保存処理

重要文化財の修理に関しては、平成23年度から出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡出土の心御柱3本(鎌倉時代)他の保存処理をおこなっている。平成27年度はPEG100%含浸までの含浸作業を終えた後にPEG溶液内から出槽した。また、平成26年度から継続している東近江市雪野山古墳(古墳時代)出土の靱^{ゆぎ}や堅櫛^{たてくし}などの漆製品の修理と保管台の作製や会津若松市会津大塚山古墳(古墳時代)出土の靱、福山市草戸千軒町遺跡(鎌倉～室町時代)出土の横杵の再修理をおこなった。

他に、清州城下町遺跡(室町時代)から出土した柿経の保存処理や平成3～6年度にわたり保存処理を行なった曾畑貝塚^{そ ばたかいづか}(縄文時代前期)出土植物性遺物の再修理を実施した。

出土金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）

国宝^{かんぱこうじんたに}神庭荒神谷遺跡出土青銅製品(36点)の保存修理

福岡県宗像大社

国宝沖ノ島祭祀遺跡出土金属製品(26点)の保存修理

福島県会津若松市

重要文化財会津大塚山古墳出土品(82点)の保存修理

広島県立歴史博物館
(福山市)

重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品(4点)の
保存修理

文化庁

重要文化財箕谷2号墳出土戊申銘象嵌大刀の保存

(兵庫県立博物館保管)

修理

大阪府豊中市

重要文化財豊中大塚古墳出土品(18点)の保存修理

宮崎県えびの市

重要文化財^{しまのうち}島内地下式横穴墓出土品(5点)の保存修理

大分県立博物館(宇佐市)

重要文化財^{めんがひら}免ヶ平古墳出土品の保存修理

奈良国立博物館(奈良市)

五条猫塚古墳出土品(4点)の保存修理

北海道厚真町

上幌内2遺跡(アイヌ文化期)出土品など(61点)
の保存処理

国宝の保存修理として、平成22年度から継続している島根県神庭荒神谷遺跡(弥生時代)出土銅剣の修理を行った。また、今年度より10年継続事業で始まった沖ノ島祭祀遺跡(古墳時代から奈良時代)出土金属製品の保存修理を行った。

重要文化財では、平成25年度から継続している福島県会津若松市・会津大塚山古墳(古墳時代前期)出土品の保存修理を行った。また、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土品、兵庫県箕谷2号墳(古墳時代終末期)出土品、大阪府豊中市・豊中大塚古墳(古墳時代中期)出土品、宮崎県えびの市・島内地下式横穴墓(古墳時代中期)出土品、大分県宇佐市・免ヶ平古墳(古墳時代前期)出土品などの保存修理も行った。

その他、主要な事業として北海道厚真町・上幌内2遺跡(アイヌ文化期)出土品などの保存処理と実測図の作成を行った。

土器・3D分野

文化庁(九州歴史資料館保管)

重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品(5点)
保存修理

大分県立博物館(宇佐市)

重要文化財免ヶ平古墳出土品(30点)の保存修理

大分県日田市

重要文化財大分県吹上遺跡出土品(3点)保存修理

埼玉県朝霞市

^{せんすいやま} ^{ふじやつ}
泉水山・富士谷遺跡出土の彩文土器の保存修理

茨城県茨城町

茨城町指定有形文化財漆紙文書付須恵器保存修理

国の指定文化財の修理としては、平成２３年度から５か年計画で、重要文化財福岡県・栗田遺跡祭祀遺構（弥生時代）出土品（甕棺）の保存修理を行っており、平成２７年度は５個の甕棺の修理を行った。また、大分県日田市・吹上遺跡（弥生時代）出土品（甕棺）、大分県宇佐市・免ヶ平古墳（古墳時代前期）出土品（ガラス古玉）などの保存修理を行った。

他に、埼玉県朝霞市泉水山・富士谷遺跡（縄文時代）出土の彩文土器の保存修理や茨城県茨城町下土師東遺跡（平安時代）出土漆紙文書付須恵器などの保存修理を行った。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成２７年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品（弥生時代）の３次元計測及び保管台の改修事業や株式会社乃村工藝社より受託した沖縄平和祈念像元型の３次元計測事業などを実施した。その他、熊本県あさぎり町・才園古墳出土（古墳時代後期）鍔金獣帯鏡のデジタルレプリカと模鑄品の製作を実施した。

５．研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

企画展の開催

『小仏塔の世界—元興寺から極楽へ—』 ※(宗)元興寺と共催

開催期間 平成２７年４月２５日(土) ～ ５月１０日(日)

開催場所 元興寺法輪館

入館者数 6,595 名

元興寺には納骨五輪塔をはじめとする各種の小仏塔が、庶民信仰資料として保存されている。今回の企画展示では、それら小仏塔の様々な機能を解説すべく、元興寺保有資料を中心に企画した。

この展示は同年度の秋季特別展と連動させ、秋季では各地から資料を借用して行うため、春季は元興寺保有資料に絞って春季に企画した。

秋季特別展の開催

『小仏塔の世界—舍利奉納と遺骨埋納—』 ※(宗)元興寺と共催

開催期間 平成２７年１０月２４日(土) ～ １１月８日(日)

開催場所 元興寺法輪館

入館者数 6,485 名

仏塔の淵源はインドにあり、釈迦の墳墓のことである。はじめは土饅頭形であったが、インドは暑いのでそれに笠を差したものが発展し、中国を経て日本に入るまでの間で様々に装飾され、現在我々が知る五重塔などへと変化した。地下への舍利（釈迦の遺骨）埋納と相輪の一部に当初の面影を伝えている。

そのなかで日本の仏塔は、目的に応じて様々な形に変化し広く庶民の間にまで浸透した。今回の展示では、仏塔の中に舍利や経典、遺骨を埋納した時代から、仏塔が墓標へと徐々に変化してゆく姿を小型の仏塔を中心に追いかけた。

展示資料は主として中世のものを取り上げ、墓跡の上に安置されていたと思われる仏塔を中心に展示した。なかには、初公開となるいわき市金光寺の木製宝篋印塔も含まれており、注目を集めた。

また、国宝元興寺禅室に於いて10月31日(土)に藤澤典彦・当研究所評議員による「小仏塔の世界」の講演をお願いし、同日に「主要展示品解説」を今回の展示担当である狭川が行った。

なお、本展示の一部は科学研究費「日本中世における葬送墓制の総括的研究」の研究成果公開を含んでいる。

文化講座の開催

平成27年	9月25日(金)	寺院と仏塔 ― 仏教伝来と仏塔の役割
	10月23日(金)	山林寺院と仏塔 ― 奈良時代・山寺の姿
	11月27日(金)	五輪塔の話 ― 密教で考案された仏塔の謎
	12月18日(金)	宝篋印塔の話 ― 形に秘められたその起源
	1月22日(金)	墓と仏塔―墓標・供養塔から墓碑へ
	2月19日(金)	納骨と仏塔―極楽往生の願を仏塔に籠めて

狭川副所長による文化講座を(宗)元興寺と共催で9月の下期より計6回開催した。各回ともに、20～30名の熱心な参加者を集め盛況である。平成28年度からは、肘塚の総合文化財センターでも順次開催していく予定である。

展覧会の開催支援

平成27年度『発掘された日本列島2015』展（文化庁受託事業）

文化庁(記念物課)と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、展示品の点検・集荷、展示・撤収支援、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年から実施している。

本年度は28遺跡約550点の資料を展示した。史跡福井洞穴遺跡出土の石器、大雲院跡出土豊臣秀次供養塔など多数の著名な遺跡から多様な遺物が展示された。入館者数についてはのべ218日間の開催で137,556人であった。

平成27年度開催館、開催期間および入館者数

東京都江戸東京博物館	平成27年 5月30日～ 7月20日	74,495人
富山県埋蔵文化財センター	平成27年 8月 1日～ 9月 6日	15,517人
栃木県立博物館	平成27年 9月19日～11月 1日	30,159人
岡山県立博物館	平成27年11月13日～12月23日	9,626人
岩手県立博物館	平成28年 1月14日～ 2月28日	7,759人

奈良大学博物館企画展の展示撤収および返却作業

奈良大学の企画展『発掘された古代国家』に展示する資料について、展示撤収、梱包・輸送を行った。主な展示資料は、奈良市平城京出土遺物、大津市山の神遺跡出土遺物、明日香村飛鳥古京出土遺物、太宰府市大宰府政庁水城出土遺物など約250点である。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内環境の管理と法輪館の展示プランを作成した。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2015』（1,500冊）の刊行

平成23年度からは(公財)畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

本年度は、水野正好前所長の追悼論文集として刊行した。

7. 体験活動調査・整理事業

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習5校、中学生職場体験3校、施設見学9件を受け入れた。

また、今後体験活動を拡大するために、「奈良時代の瓦の拓本体験」を担当者の研修も含め試みとして実施した（7回・約340名参加）。